

公益財団法人ハイライフ研究所

WEBセミナー第3回

# 都市におけるワークライフバランス (WLB)

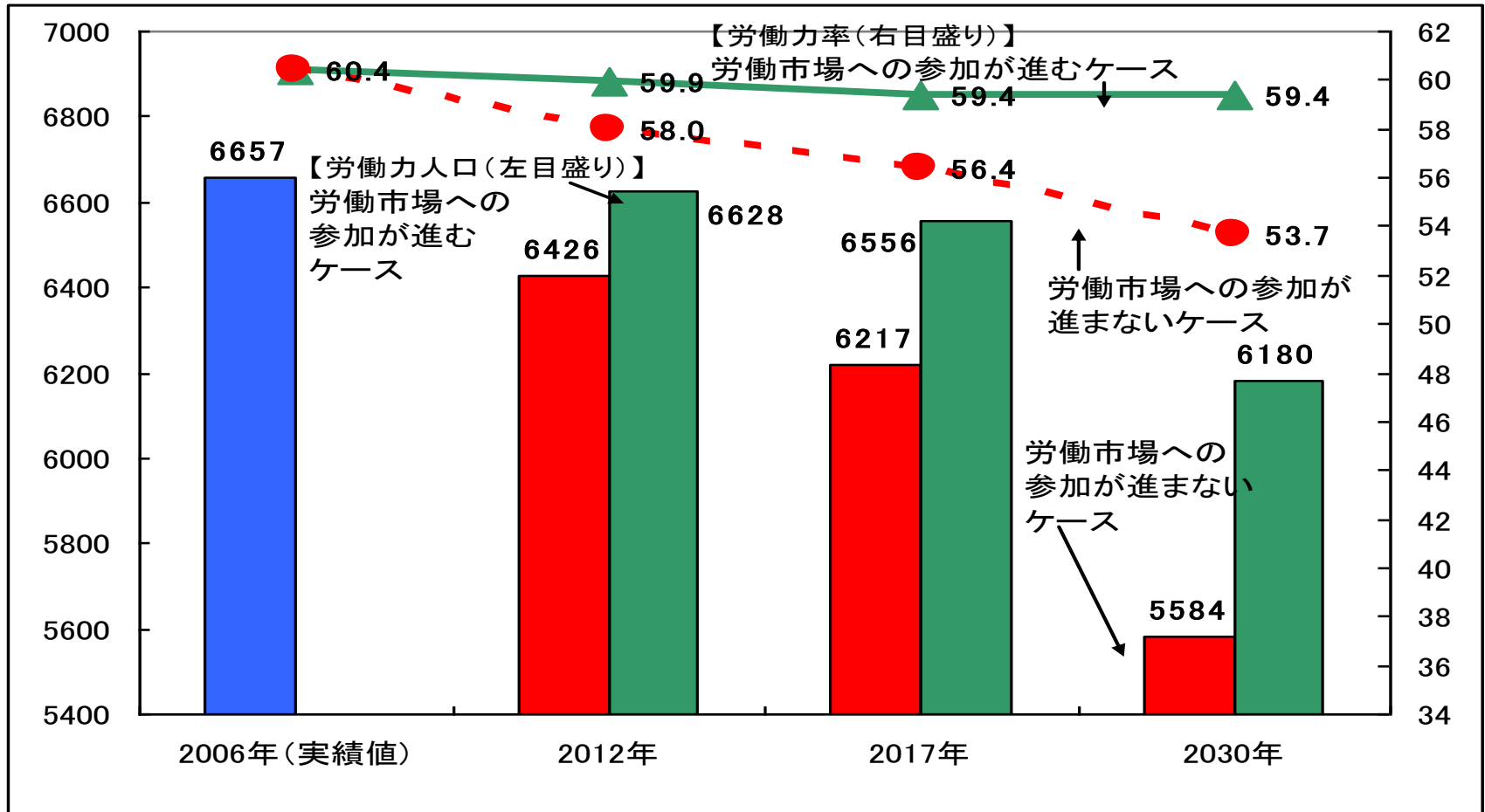
2011年2月14日

学習院大学 経済学部教授

経済経営研究所所長

脇坂 明

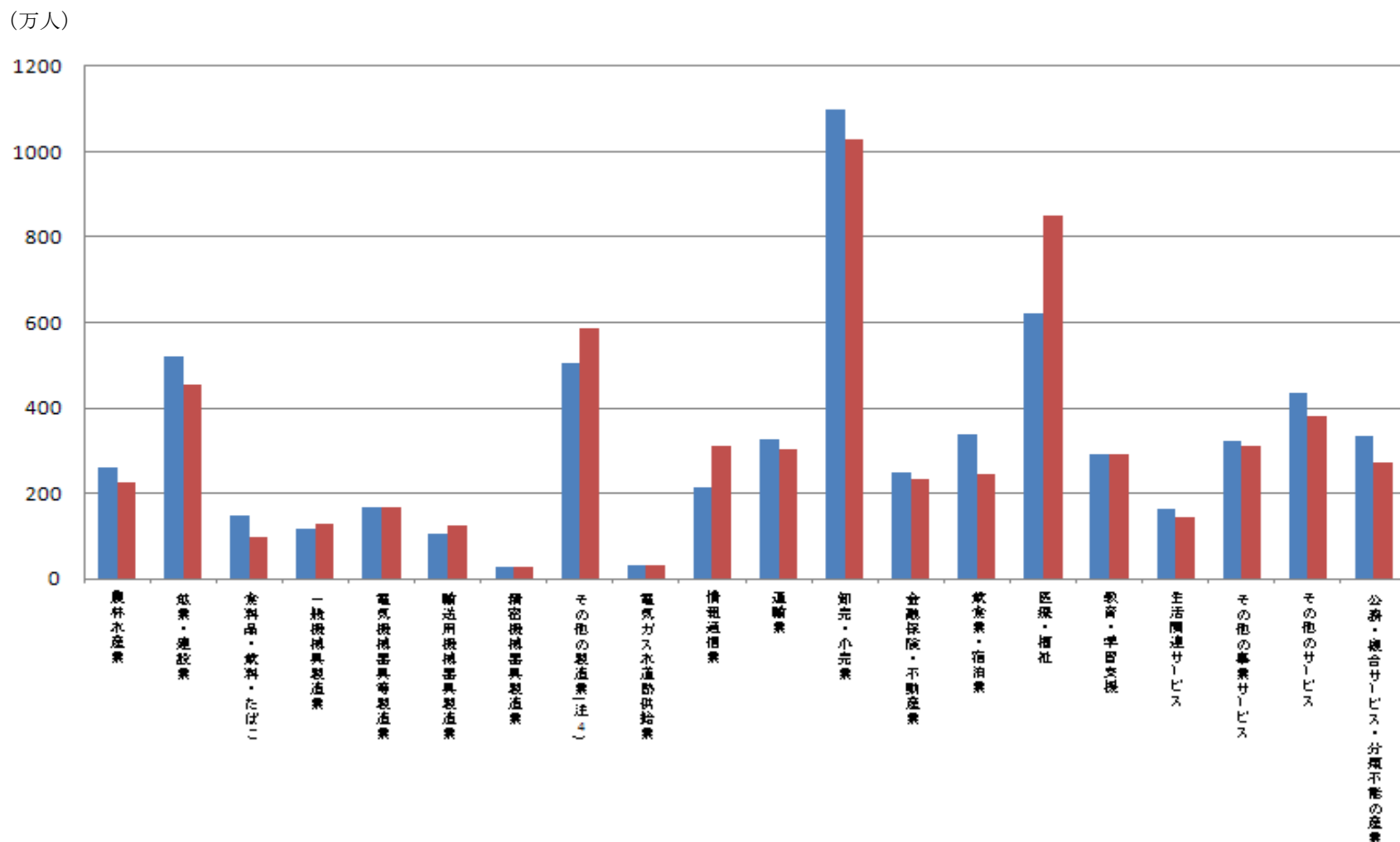
# 20年後は4分の1の労働力人口がいなくなる



2 (出所)2006年度は総務省統計局「労働力調査」、2012年以降はJILPT労働力需給推進研究会の推計値を基に、雇用政策研究会にて検討を行ったもの

# 産業別就業者数の推計

■ 2009年実績値  
■ 2020年推計値基本ケース



注)1. 2009年は総務省統計局「労働力調査」による実績値、2020年は推計値

注)2. 付加価値誘発額から労働力需要を推計

注)3. 基本ケース:投入係数2005年一定、最終需要財構成2000～2005年トレンド延長

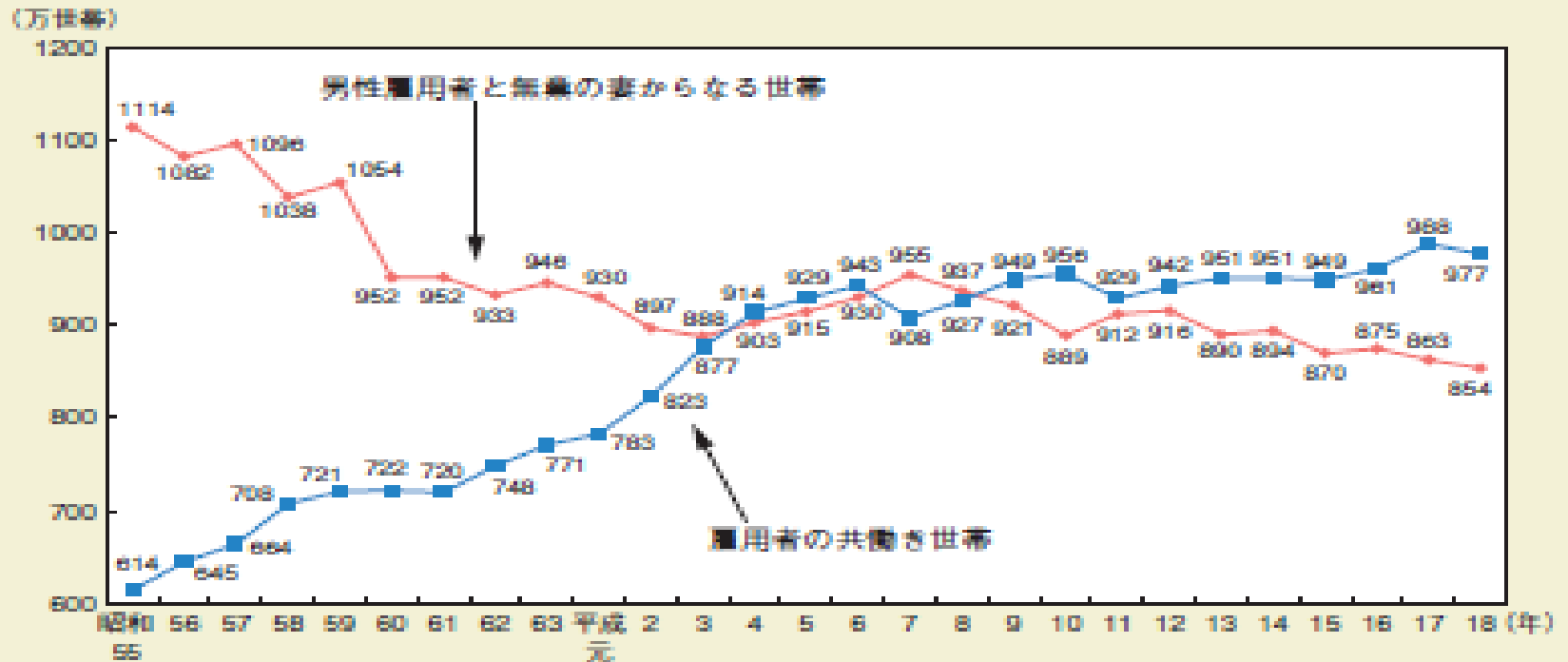
注)4. 「その他の製造業」は、ここで明示している製造業以外のものを指しており、日本標準産業分類のその他の製造業に加え、窯業・土石・鉄鋼、金属製品などの素材産業も含んでいる

## 東京都の職業別従業者数の推計

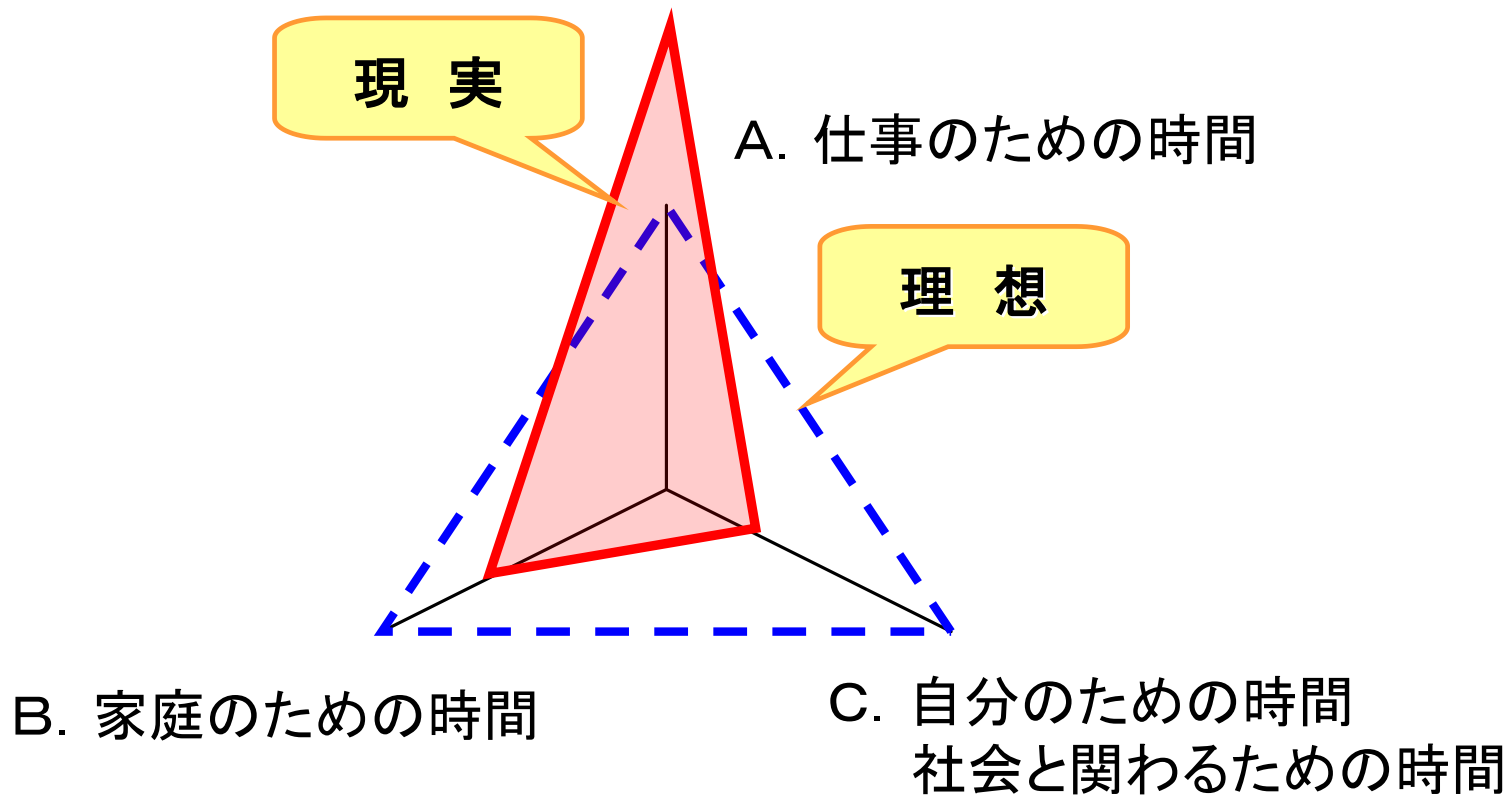
(単位:人)

|              | 平成17年*<br>(2005) | 平成22年<br>(2010)  | 平成27年<br>(2015)  | 平成32年<br>(2020)  | 平成37年<br>(2025)  |
|--------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 総数           | <b>8 205 300</b> | <b>8 408 704</b> | <b>8 386 094</b> | <b>8 206 488</b> | <b>8 046 513</b> |
| 専門的・技術的職業従事者 | 1 416 477        | 1 541 221        | 1 572 659        | 1 566 274        | 1 554 931        |
| 管理的職業従事者     | 263 828          | 267 422          | 261 604          | 252 820          | 245 757          |
| 事務従事者        | 2 227 544        | 2 347 208        | 2 339 879        | 2 289 599        | 2 246 775        |
| 販売従事者        | 1 493 725        | 1 553 395        | 1 534 230        | 1 488 582        | 1 449 045        |
| サービス職業従事者    | 745 295          | 808 985          | 820 965          | 814 046          | 806 142          |
| 保安職業従事者      | 137 138          | 145 968          | 146 338          | 143 393          | 140 561          |
| 農林漁業作業従事者    | 28 439           | 28 186           | 27 131           | 26 055           | 25 221           |
| 運輸・通信従事者     | 230 005          | 239 167          | 236 775          | 230 210          | 224 746          |
| 生産工程・労務作業従事者 | 1 436 910        | 1 477 152        | 1 446 513        | 1 395 509        | 1 353 335        |
| 分類不能の職業      | 225 939          | -                | -                | -                | -                |

# 共働き世帯の推移



- (備考) 1. 昭和55年から平成13年は総務省「労働力調査特別調査」(各年2月、ただし、昭和55年から57年は各年3月)、平成14年以降は「労働力調査(詳細結果)」(年平均)より作成。
2. 「男性雇用者と無業の妻からなる世帯」とは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び完全失業者)の世帯。
3. 「雇用の共働き世帯」とは、夫婦ともに非農林業雇用者の世帯。
4. 昭和60年以降は「夫婦のみの世帯」、「夫婦と親から成る世帯」、「夫婦と子供から成る世帯」及び「夫婦、子供と親から成る世帯」のみの世帯数。
5. 「労働力調査特別調査」と「労働力調査(詳細結果)」とでは、調査方法、調査月などが相違することから、時系列比較には注意を要する。



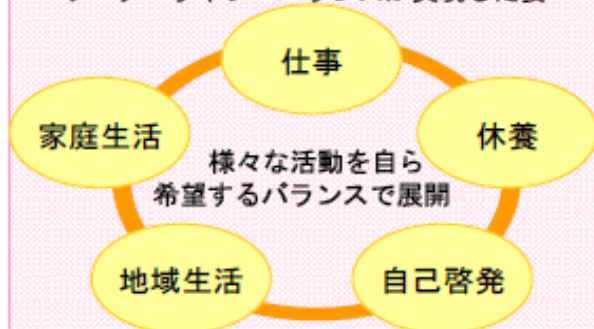
# 「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的方向(ポイント)

—多様性を尊重し仕事と生活が好循環を生む社会に向けて—

## 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の考え方

平成19年5月 男女共同参画会議・仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する専門調査会 中間報告

ワーク・ライフ・バランスが実現した姿



ワーク・ライフ・バランスとは:仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自らが希望するバランスで展開できる状態

男性も女性も、あらゆる世代の人のためのもの

人生の段階に応じて希望する「バランス」を決めることができる

「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の好循環

多様性を尊重した活力ある社会

## なぜ今、ワーク・ライフ・バランスが必要か？

少子高齢化・人口減少時代を迎え、これまでの働き方では、個人、企業・組織、社会全体が**持続可能でなくなる**

### (1)個人

・仕事と家庭の両立が困難

- ライフスタイルや意識の変化
- 両立希望に反して仕事中心になる男性
- 家庭責任が重く希望する形で働くのが難しい女性

・自己啓発や地域活動への参加が困難

・長時間労働が心身の健康に悪影響

⇒ 希望するバランスの実現のために必要

### (2)社会全体

- ・労働力不足の深刻化
- ・生産性の低下・活力の衰退
- ・少子化の急速な進行
- ・地域社会のつながりの希薄化

⇒ 経済社会の活力向上のために必要

### (3)個々の企業・組織

・人材獲得競争の激化

⇒ 多様な人材を生かし競争力を強化するために必要

- ・従業員の人生の段階に応じたニーズへの対応(若年層、子育て層、介護層、高齢層)
- ・意欲や満足度の向上
- ・女性の活用

・ワーク・ライフ・バランスは経営戦略の重要な柱:「明日への投資」

・中小企業にとっては特に大きな意義

# WLB憲章による目標

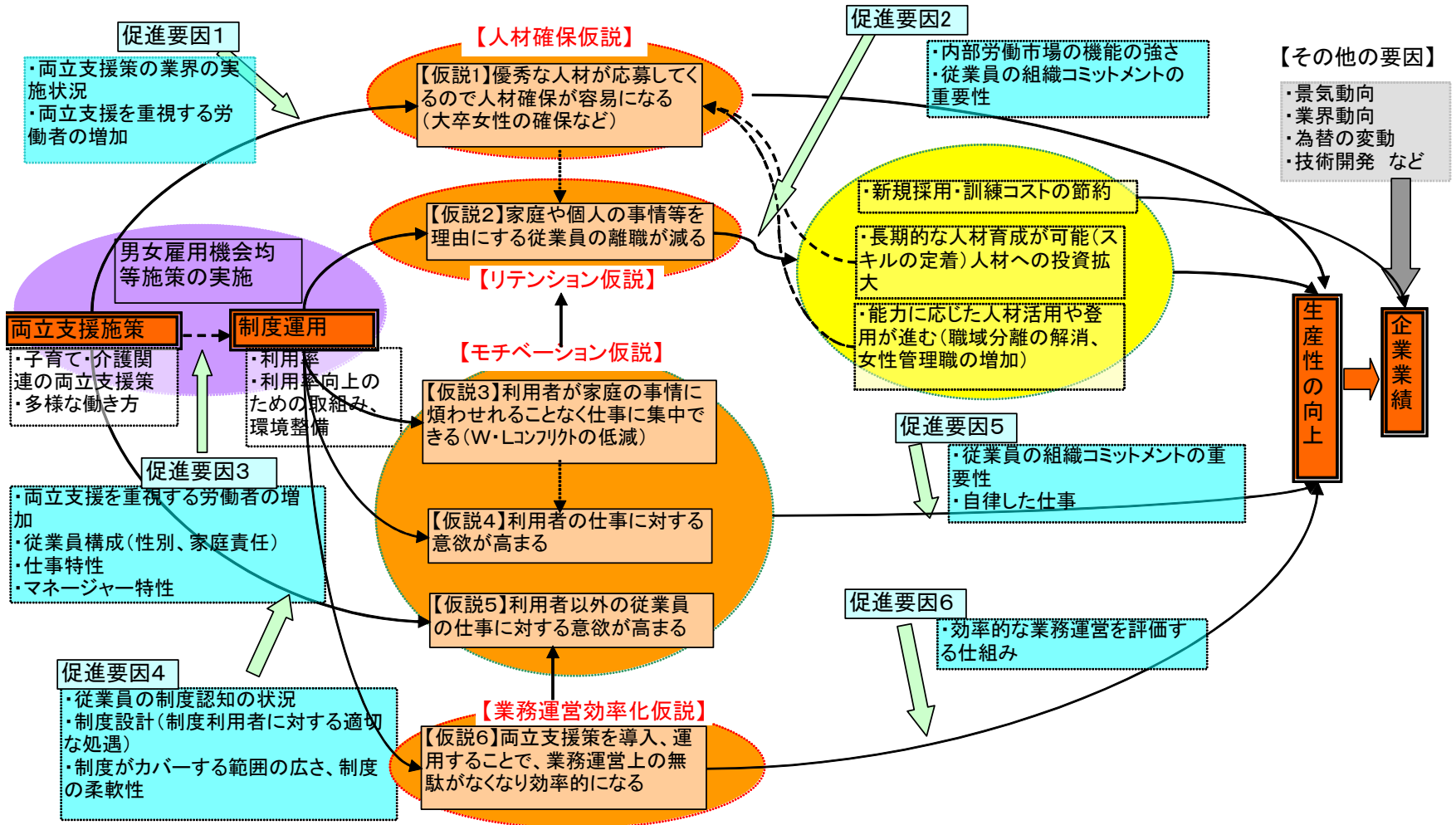
|                        | 数値目標設定指標  | 現状(直近の値)                     | 2020年                             |
|------------------------|---|------------------------------|-----------------------------------|
| 社会<br>社会<br>社会         | 就業率（Ⅱ，Ⅲにも関わるものである）  | 20～64歳 74.6%                 | 80%                               |
|                        |   | 15歳以上 56.9%                  | 57%                               |
|                        |   | 20～34歳 73.6%                 | 77%                               |
| 25～44歳 女性 66.0%        |   | 73%                          |                                   |
| 60～64歳 57.0%           |   | 63%                          |                                   |
|                        | 時間当たり労働生産性の伸び率(実質、年平均)(Ⅱ，Ⅲにも関わるものである)   | 1.7%(2000～2009年度の10年間平均)     | 実質GDP成長率に関する目標(2%を上回る水準)より高い水準(※) |
|                        | フリーターの数   | 約178万人(2003年にピークの217万人)      | 124万人<br>※ピーク時比で約半減               |
| 社会<br>社会<br>社会         | 労働時間等の課題について労使が話し合いの機会を設けている場合<br>週労働時間60時間以上の雇用者の割合<br>年次有給休暇取得率<br>メンタルヘルスケアに関する措置を受けられる職場の割合 | 52.1%                        | 全ての企業で実施                          |
|                        |   | 10.0%                        | 5割減                               |
|                        |   | 47.4%                        | 70%                               |
|                        |   | 33.6%                        | 100%                              |
| 社会<br>社会<br>社会         | 在宅型テレワーカーの数   | 330万人                        | 700万人(2015年)                      |
|                        | 短時間勤務を選択できる事業所の割合(短時間正社員制度等)  | (参考) 8.6%以下                  | 29%                               |
|                        | 自己啓発を行っている労働者の割合  | 42.1%(正社員)<br>20.0%(非正社員)    | 70%(正社員)<br>50%(非正社員)             |
|                        | 第1子出産前後の女性の継続就業率  | 38.0%                        | 55%                               |
|                        | 保育等の子育てサービスを提供している割合  | 保育サービス(3歳未満児)24%(平成21年度末見込み) | 44%(2017年)                        |
|                        |   | 放課後児童クラブ(小学校1年～3年)20.8%      | 40%(2017年)                        |
|                        | 男性の育児休業取得率  | 1.23%                        | 13%                               |
| 6歳未満の子どもをもつ夫の育児・家事関連時間 | 1日当たり60分  | 2時間30分                       |                                   |

数値目標の設定に当たっては、以下の数値目標との整合性を取っている。

- ①～③、⑤～⑦、⑩～⑬:「新成長戦略」(2010年6月18日、閣議決定)
- ①、③、⑤～⑦、⑩、⑪、⑬:「2020年までの目標」(2010年6月3日、雇用戦略対話)
- ⑧:「新たな情報通信技術戦略 工程表」(2010年6月22日、高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部)
- ⑫:「子ども・子育てビジョン」(2010年1月29日閣議決定)
- ※「新成長戦略」(2010年6月18日、閣議決定)において、「2020年度までの平均で、名目3%、実質2%を上回る成長を目指す。」、「2%を上回る実質成長率を実現するためには、それを上回る労働生産性の伸びが必要である。」とあることを踏まえたもの。



# WLB施策が企業業績に及ぼす影響（6つの仮説）



## 財務データ

# ファミフレ度

一人当り売り上げ

一人当り経常利益

(百万円)

65.3

3.40

103.8

3.89

61.4

1.42

86.1

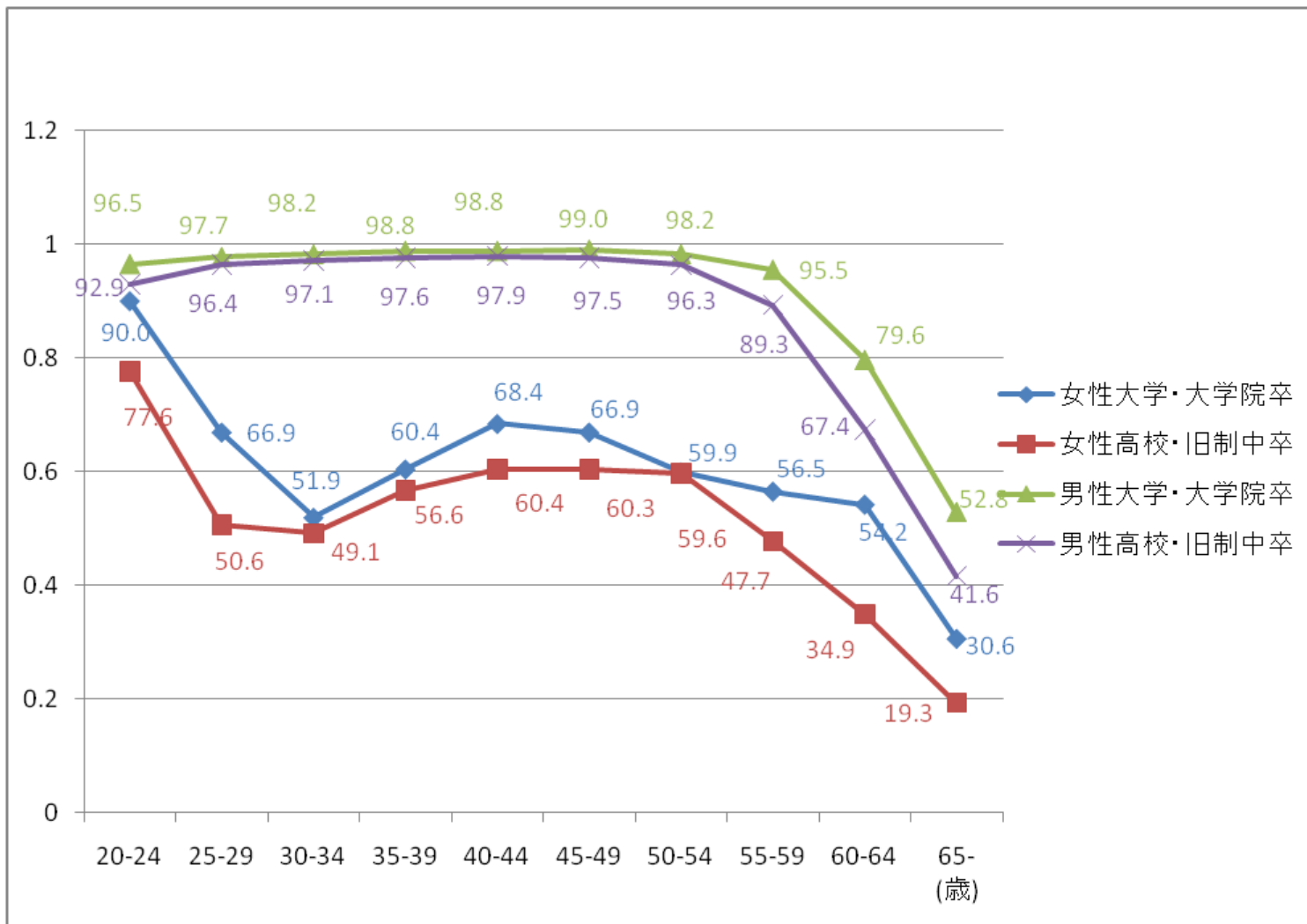
2.29

(百万円)

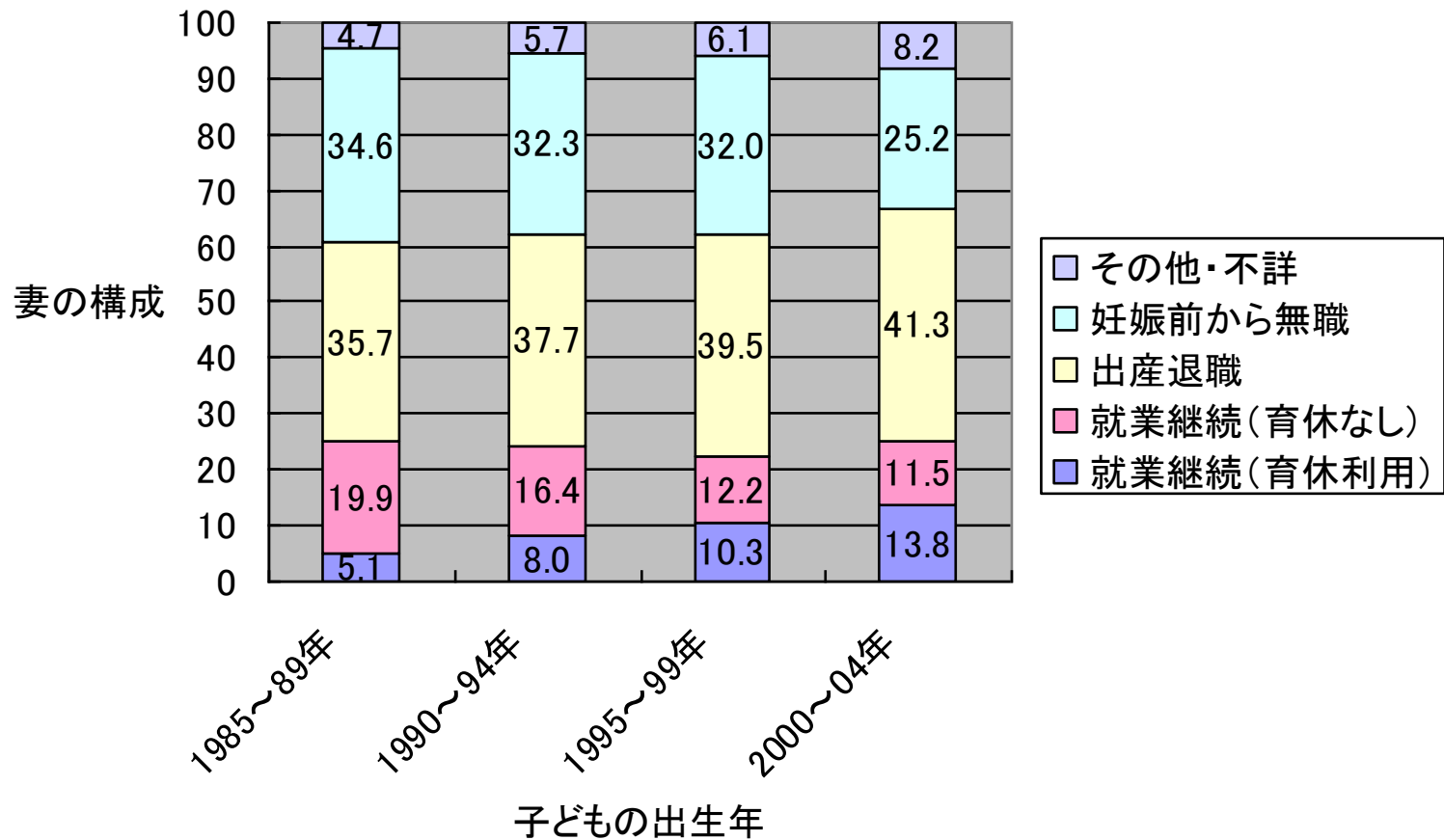
均等度

出所) 学習院大学経済経営研究所『経営戦略としてのワークライフバランス』

# 性別學歷別労働力率

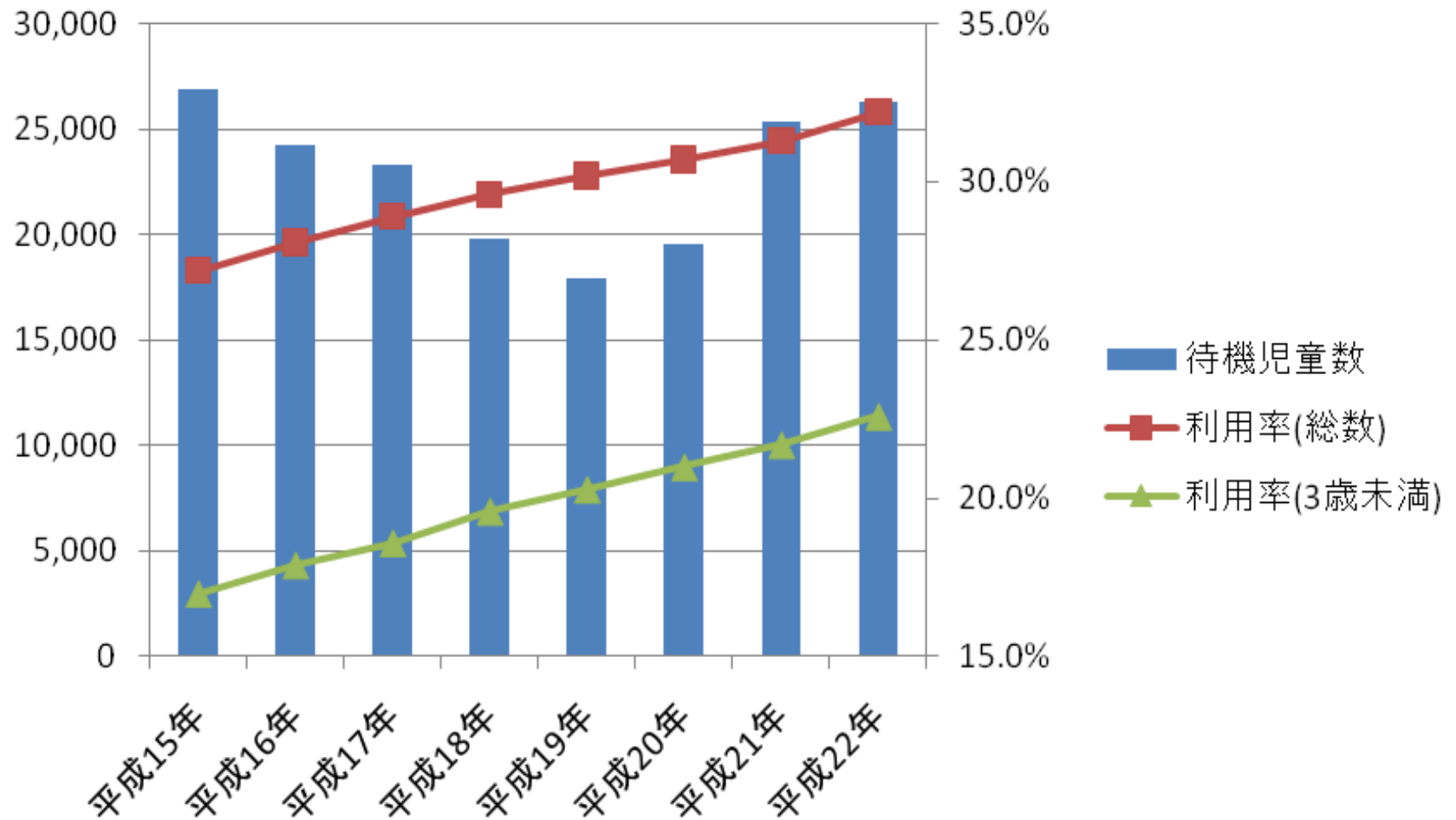


## 第一子出産後の継続就業割合



資料) 社会保障人口問題研究所「出生動向基本調査」

# 保育所の定員・利用児童数等の状況



## 都市部とそれ以外の地域の待機児童数

|                | 利用児童数(%)               | 待機児童数(%)            |
|----------------|------------------------|---------------------|
| 7都道府県・指定都市・中核市 | 1,083,081人<br>(52.1%)  | 22,107人<br>(84.1%)  |
| その他の道県         | 997,033人 (47.9%)       | 4,168人 (15.9%)      |
| 全国計            | 2,080,114人<br>(100.0%) | 26,275人<br>(100.0%) |

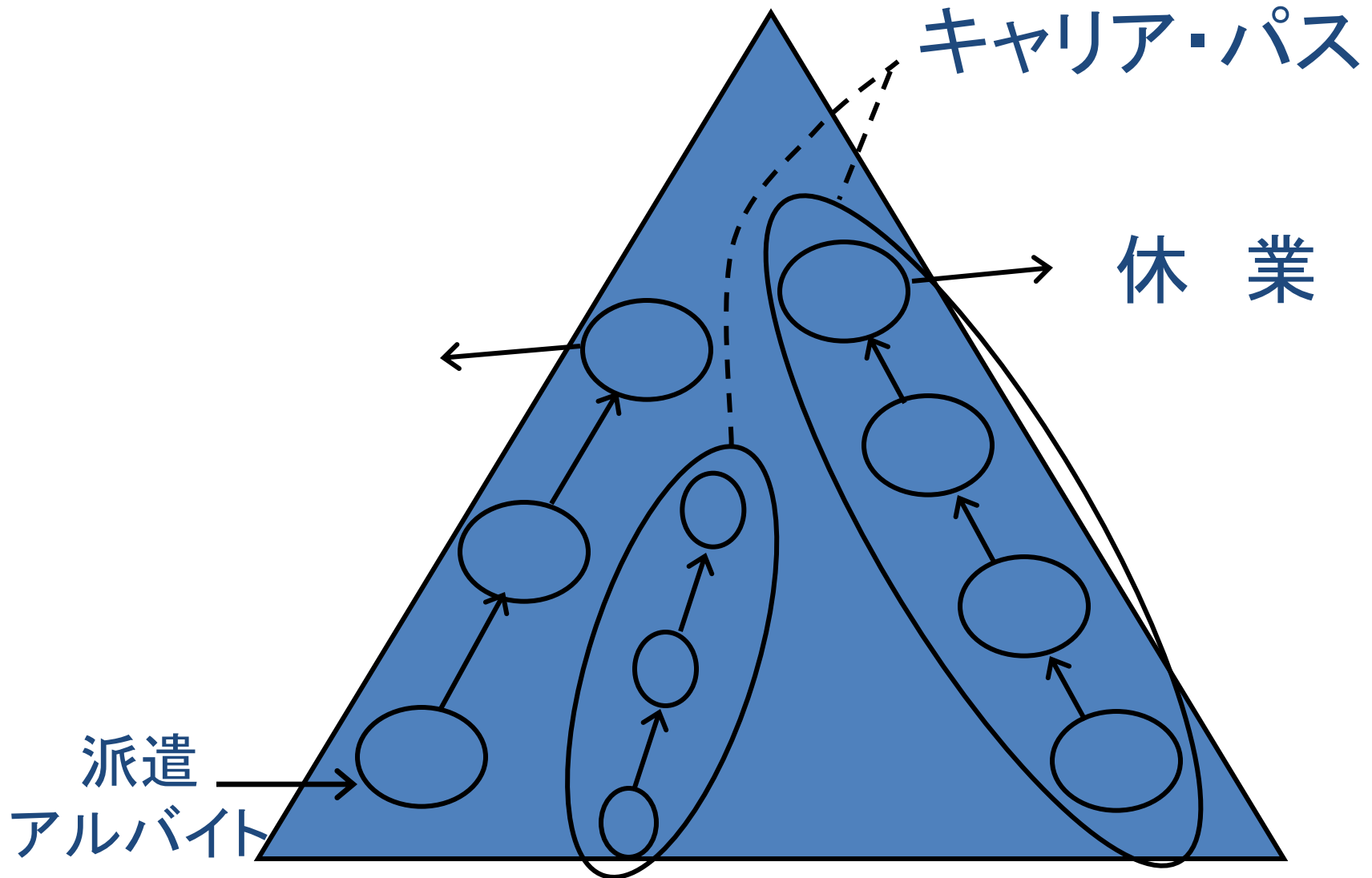
## 年齢区分別の待機児童数

|            | 22年利用児童数<br>(%)        | 22年待機児童数<br>(%)  |
|------------|------------------------|------------------|
| 低年齢児(0～2歳) | 742,085人 (82.0%)       | 21,537人 (82.0%)  |
| うち0歳児      | 99,223人 (4.8%)         | 3,708人 (14.1%)   |
| うち1・2歳児    | 642,862人 (30.9%)       | 17,829人 (67.9%)  |
| 3歳以上児      | 1,338,029人<br>(64.3%)  | 4,738人 (18.0%)   |
| 全年齢児合計     | 2,080,114人<br>(100.0%) | 26,275人 (100.0%) |

低年齢児が全体の82.0%を占める。

そのうち、特に1・2歳児(1万7千829人)が多い。

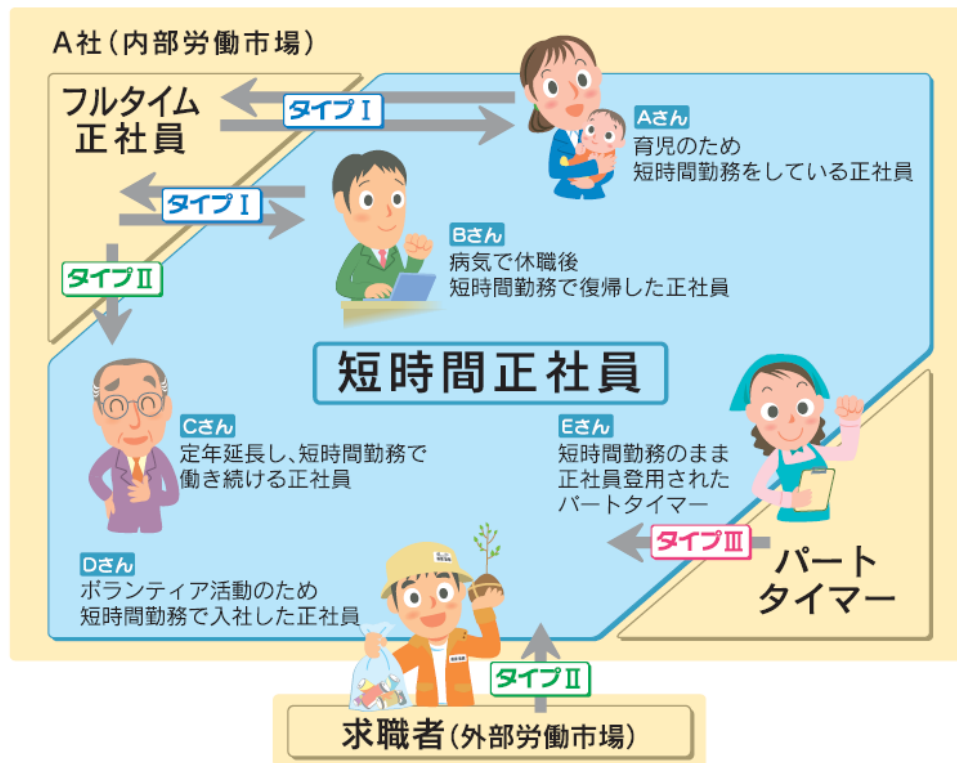
# 順送り方式





# 短時間正社員の概要

- 短時間正社員は、その「なり方」等によって、大きく3つのタイプに分かれます。
- タイプの違いは、一つには「一時的な制度利用」か「継続的な制度利用」という視点と、二つ目には、「社内からの転換」か「社外からの入職」という視点で、下記のように整理されます



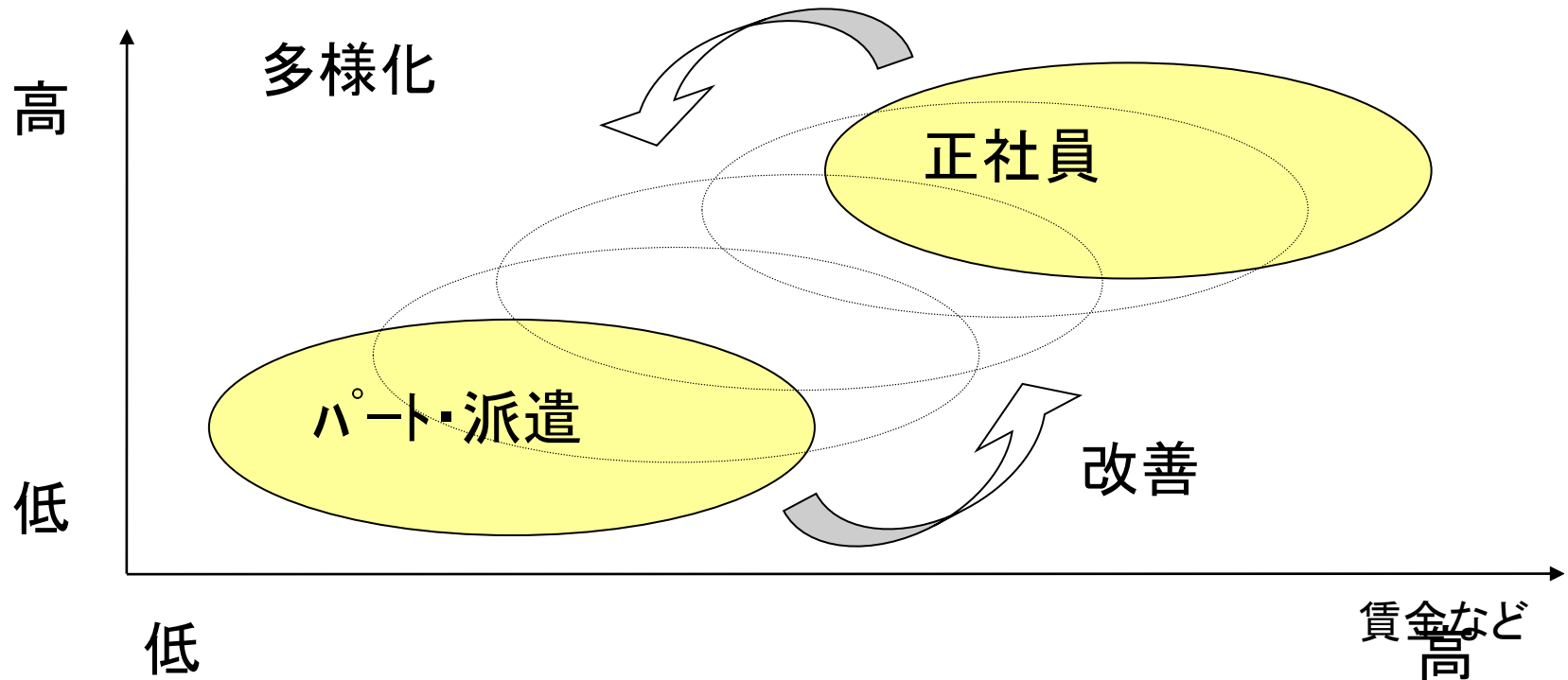
【タイプI】正社員が一時的に短時間勤務をするタイプ

【タイプII】正社員が恒常的、または期間を定めずに短時間勤務するタイプ  
入社時点から、フルタイム正社員ではなく短時間勤務として採用されるタイプ

【タイプIII】パートタイマーなどが、短時間勤務のまま正社員になるタイプ

# 将来: 多様で柔軟な働き方のイメージ

企業とのつながり、柔軟性



X 軸:賃金、雇用保障 など

Y 軸: 企業とのつながり、柔軟性

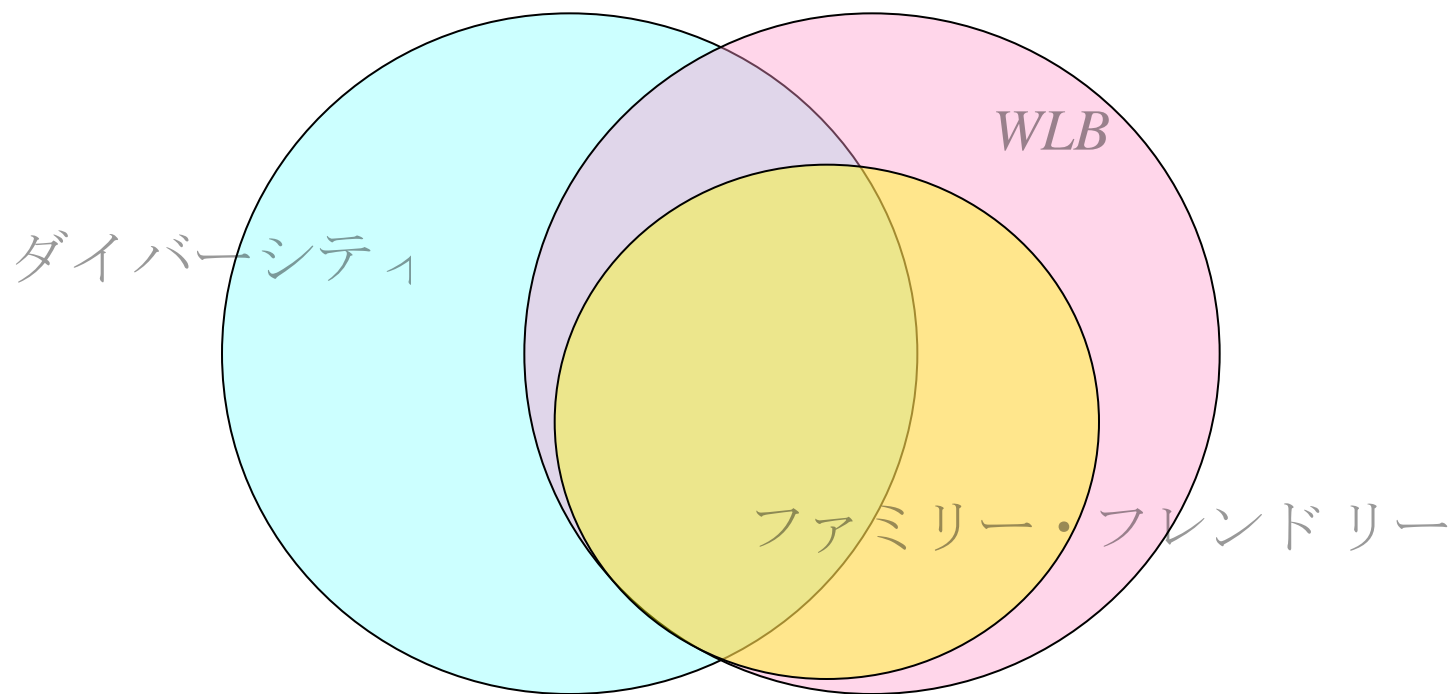
# 男性の育児休業と仕事

|                 | N        | やりがい | 達成感  | 成長感  | 必要性  | 業績貢献 | 職場満足 |
|-----------------|----------|------|------|------|------|------|------|
| 制度あり本人<br>利用あり  | 21       | 3.95 | 3.90 | 3.86 | 4.14 | 3.95 | 3.67 |
| 制度ありまわ<br>り利用あり | 510      | 3.51 | 3.57 | 3.55 | 3.68 | 3.55 | 3.10 |
| 制度あり利用<br>無し    | 479      | 3.37 | 3.39 | 3.38 | 3.51 | 3.46 | 2.94 |
| 制度なし            | 369      | 3.10 | 3.21 | 3.09 | 3.44 | 3.44 | 2.61 |
| わからない           | 238      | 3.23 | 3.32 | 3.26 | 3.37 | 3.31 | 2.86 |
|                 | 161<br>7 | 3.34 | 3.40 | 3.36 | 3.53 | 3.47 | 2.91 |

## 就業形態別にみた性、年齢、学歴、職業、産業、企業規模の比率

| 性別         |  | 総数     | 正規    | パート   | アルバイト | 派遣社員 | 契約社員 | 嘱託   | その他  |
|------------|--|--------|-------|-------|-------|------|------|------|------|
| 総数<br>(割合) |  | 100.0% | 64.5% | 16.6% | 7.7%  | 3.0% | 4.2% | 2.0% | 2.0% |
| 男          |  | 100.0% | 80.1% | 3.1%  | 6.9%  | 2.1% | 3.9% | 2.2% | 1.7% |
| 女          |  | 100.0% | 44.8% | 33.8% | 8.6%  | 4.2% | 4.6% | 1.7% | 2.3% |

資料)就業構造基本調査(2007年)



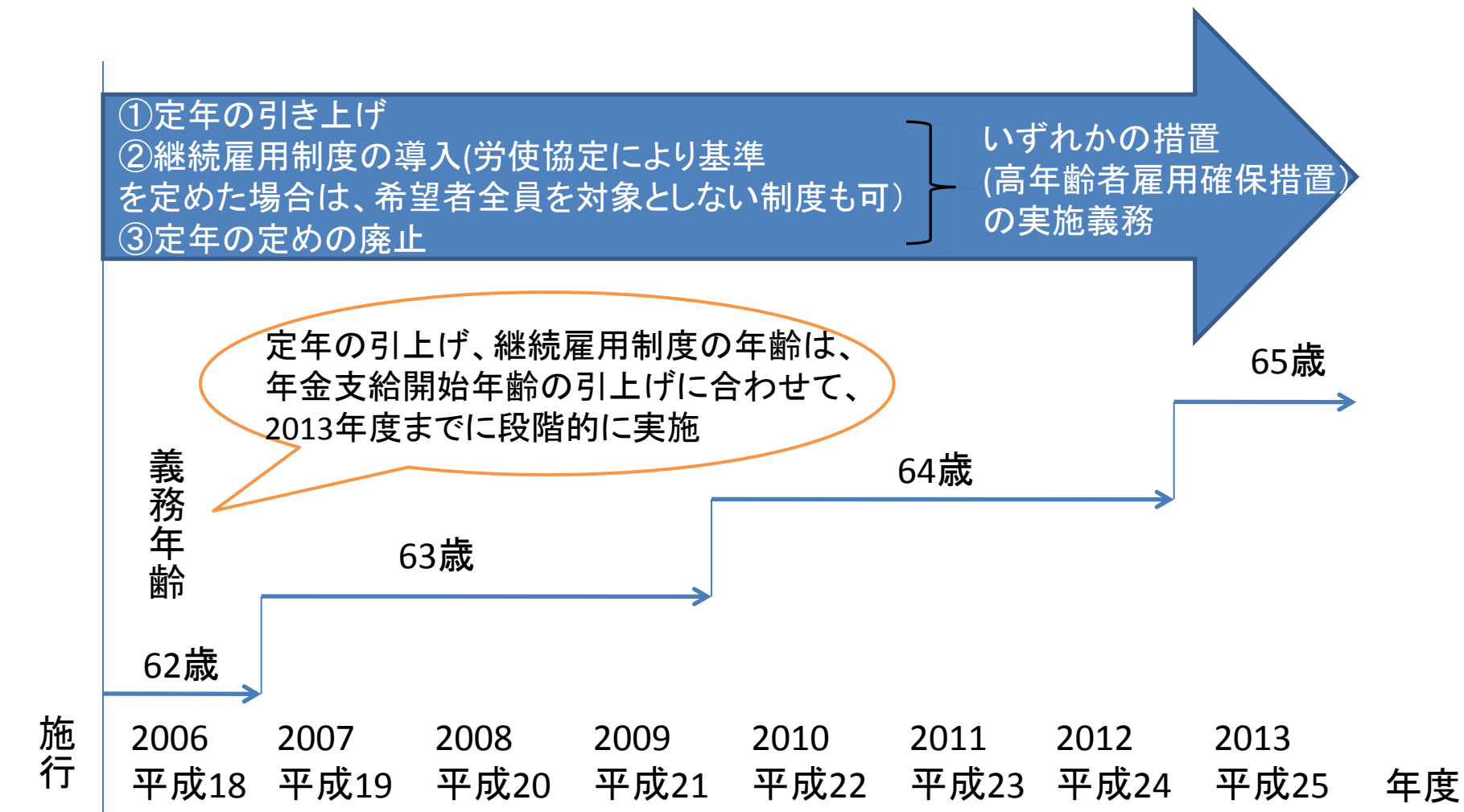
# 在留資格別外国人の推移

| 在留資格      | 平成16年     | 平成17年     | 平成18年     | 平成19年     | 平成20年     | 構成比    | 対前年未増減率 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|---------|
| 総数        | 1,973,747 | 2,011,555 | 2,084,919 | 2,152,973 | 2,217,426 | 100.0% | 3.0%    |
| 教授        | 8,153     | 8,406     | 8,525     | 8,436     | 8,333     | 0.4%   | -1.2%   |
| 芸術        | 401       | 448       | 462       | 448       | 461       | 0.0%   | 2.9%    |
| 宗教        | 4,699     | 4,588     | 4,654     | 4,732     | 4,601     | 0.2%   | -2.8%   |
| 報道        | 292       | 280       | 273       | 279       | 281       | 0.0%   | 0.7%    |
| 投資・経営     | 6,396     | 6,743     | 7,342     | 7,916     | 8,895     | 0.4%   | 12.4%   |
| 法律・会計業務   | 125       | 126       | 141       | 145       | 154       | 0.0%   | 6.2%    |
| 医療        | 117       | 146       | 138       | 174       | 199       | 0.0%   | 14.4%   |
| 研究        | 2,548     | 2,494     | 2,332     | 2,276     | 2,285     | 0.1%   | 0.4%    |
| 教育        | 9,393     | 9,449     | 9,511     | 9,832     | 10,070    | 0.5%   | 2.4%    |
| 技術        | 23,210    | 29,044    | 35,135    | 44,684    | 52,273    | 2.4%   | 17.0%   |
| 人文知識・国際業務 | 47,682    | 55,278    | 57,323    | 61,763    | 67,291    | 3.0%   | 9.0%    |
| 企業内転勤     | 10,993    | 11,977    | 14,014    | 16,111    | 17,798    | 0.8%   | 10.5%   |
| 興行        | 64,742    | 36,376    | 21,062    | 15,728    | 13,081    | 0.6%   | -17.1%  |
| 技能        | 13,373    | 15,112    | 17,869    | 21,261    | 25,863    | 1.2%   | 21.6%   |
| 留学        | 129,873   | 129,568   | 131,789   | 132,460   | 138,514   | 6.2%   | 4.6%    |
| 就学        | 43,208    | 28,147    | 36,721    | 38,130    | 41,313    | 1.9%   | 8.3%    |
| 研修        | 54,317    | 54,107    | 70,519    | 88,086    | 86,826    | 3.9%   | -1.4%   |
| 家族滞在      | 81,919    | 86,055    | 91,344    | 98,167    | 107,641   | 0.4%   | 9.7%    |
| 特定活動      | 63,310    | 87,324    | 97,476    | 104,488   | 121,863   | 1.0%   | 16.6%   |
| 永住者       | 312,964   | 349,804   | 394,477   | 439,757   | 492,056   | 11.0%  | 11.9%   |
| 日本人の配偶者等  | 257,292   | 259,656   | 260,955   | 256,980   | 245,497   | 11.1%  | -4.5%   |
| 永住者の配偶者等  | 9,417     | 11,066    | 12,897    | 15,365    | 17,839    | 0.8%   | 16.1%   |
| 定住者       | 250,734   | 265,639   | 268,836   | 268,604   | 258,498   | 11.7%  | -3.8%   |
| 特定永住者     | 465,619   | 451,909   | 443,044   | 430,229   | 420,305   | 19.0%  | -2.3%   |
| その他       | 112,970   | 107,815   | 98,080    | 86,922    | 75,539    | 3.4%   | -13.1%  |

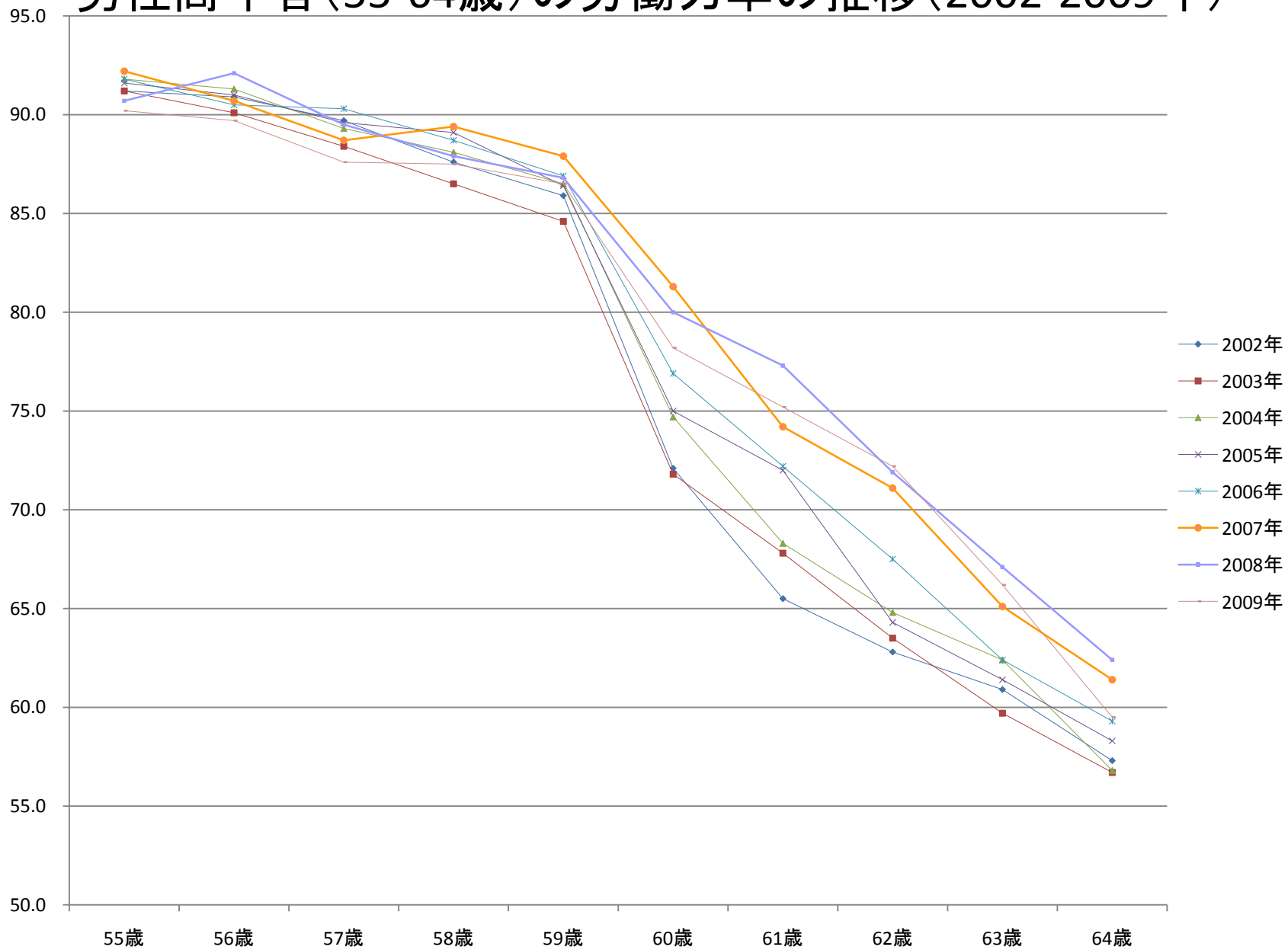
就労を目的とする外国人数  
21万1,535人

大卒ホワイトカラー、技術者  
13万7,362人

# 改正高年齢者雇用安定法による高年齢者雇用確保措置の義務付け

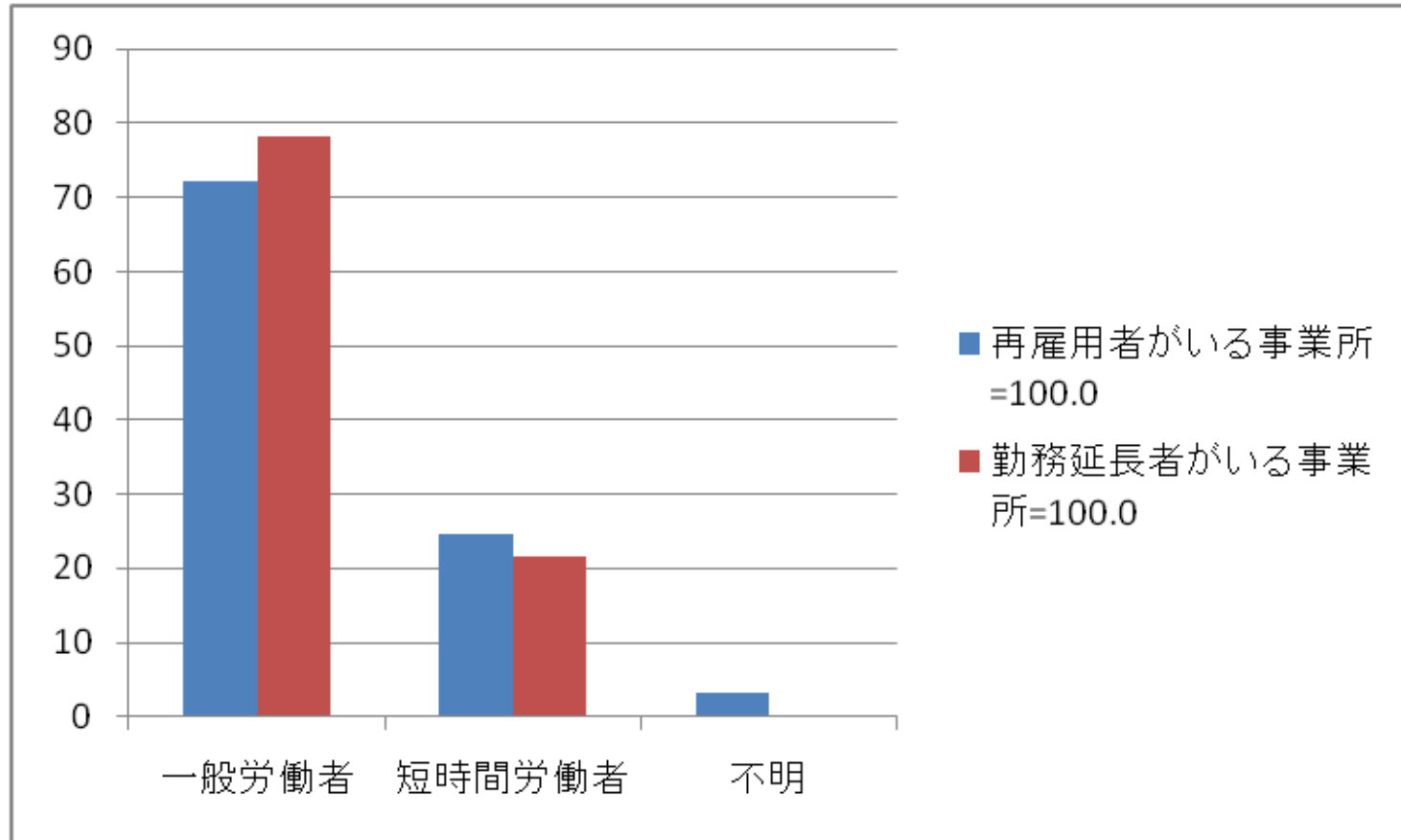


# 男性高年者(55-64歳)の労働力率の推移(2002-2009年)





# 継続雇用者の勤務形態



資料)厚生労働省「高年齢者雇用実態調査」 2008年

# 介護の問題を突破する

1) 要介護状態にならないように

できるだけ長い年齢まで働く場があれば、要介護状態になりにくい？

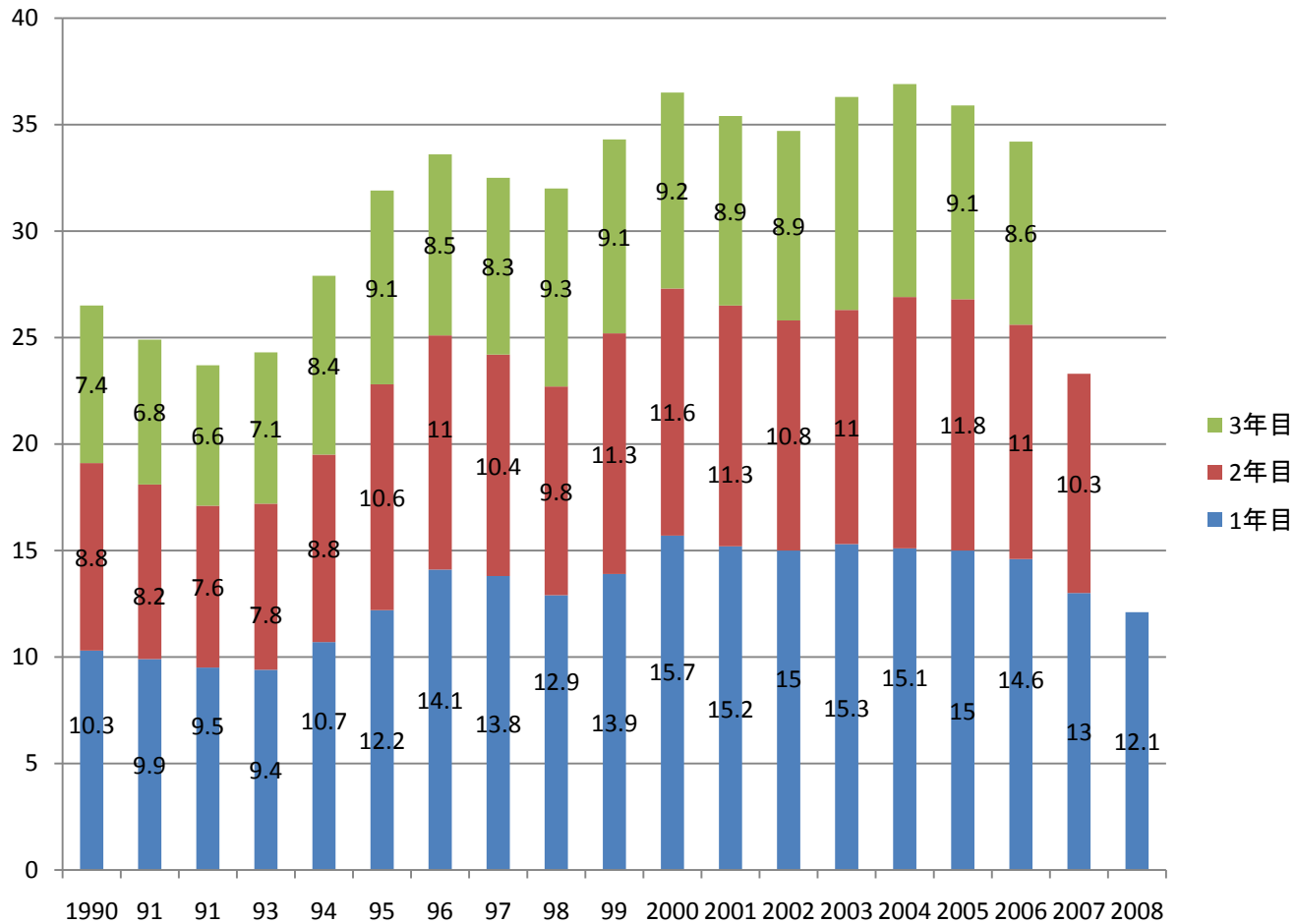
2) 要介護状態になったとき

・介護者－介護休業、介護短時間勤務など  
WLB施策→介護経験からの技能向上(介護ビジネス)だけでなく人間としての向上

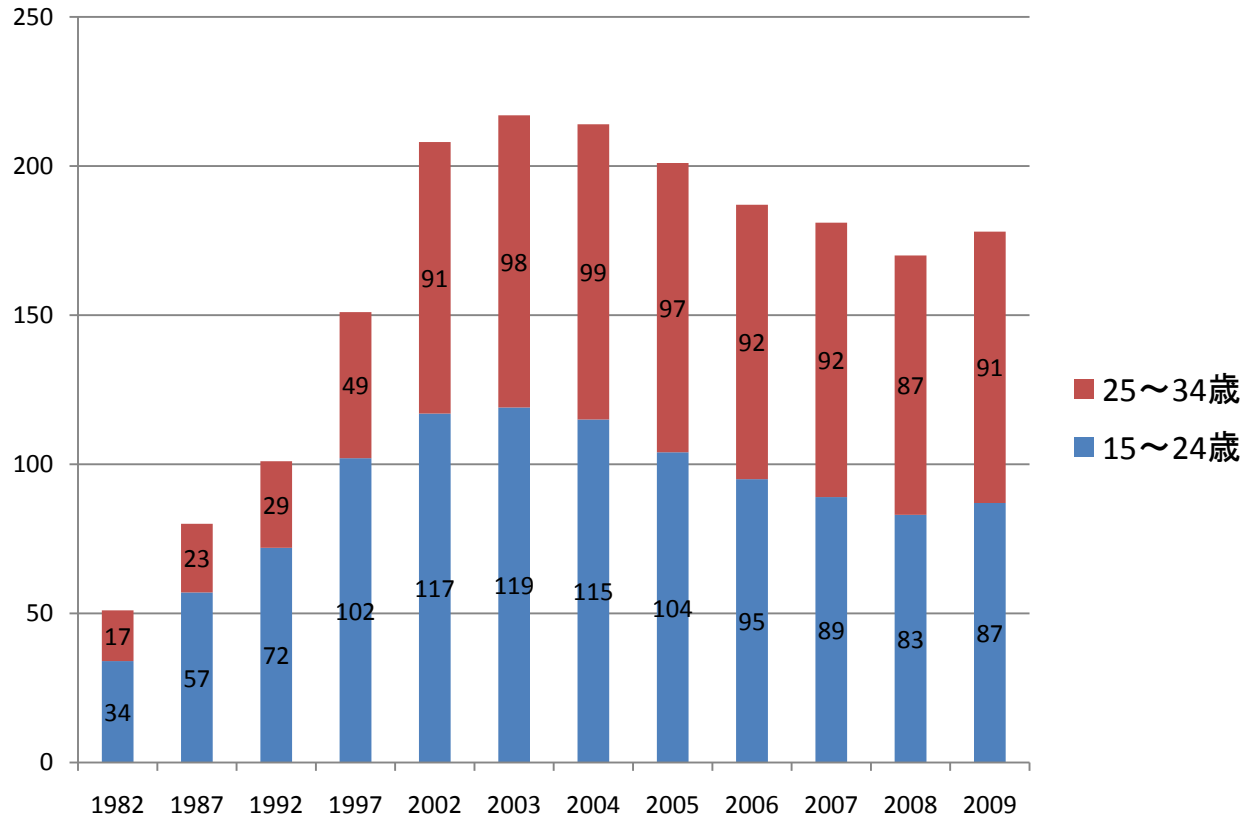
介護保険の利用

・要介護者 － 都市における「バリアフリー」  
社会

# 新規大卒労働者の勤続年数別離職率



# 年齢階級別フリーター数の推移



出所)労働経済白書

# 「湯元 榊原館」の高齢者活用

紫式部もつかったという三重県の温泉地の元湯旅館。

1995年に65歳定年、現在は希望者全員が70歳まで、嘱託、パート、臨時社員として雇用。70歳を超えても再雇用はある。

たとえば温泉湯の管理をする湯守では74歳の高齢者が若手社員とともに働き、スキルを伝承している。この若手と高年齢者による「グループ就労」は社長の経営方針で、若手の定着率の改善をめざすものである。

60種類以上の勤務シフトを用意し、高齢者が働きやすくなるよう工夫している。